

DWATや災害ボランティアセンター、応急危険度判定等の 協力支援/現場体験を甲賀市の備えに活かしていこう!

甲賀市役所内でも、発災直後から滋賀県の要請を受け、建設部を中心に能登地方への災害支援を行っています。また、民間法人においてもさまざまな形で支援に向かっています。一部を紹介します。大切なことは、この支援活動を学びとして甲賀市の備えに生かしていくことです。

被災建築物 応急危険度判定

建設部住宅建築課 井原徹 係長
岡田陽介 係長

県庁職員とともに、地震により倒壊した家屋の危険度判定調査業務。能登町松波地区、珠洲市が判定地区でした。強い余震が続く中、地盤の隆起や液状化により完全に倒壊している家屋を目の当たりにしました。



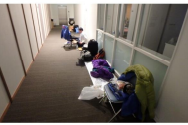
倒壊した家屋



「危険」「要注意」「調査済」シート



雪中、1軒ずつ危険度判定している様子



余震と防災無線が鳴る中役場廊下で事務仕事、就寝

災害時の活動は、肉体的にも精神的にも休める場所が必要です。

甲賀市の場合、市役所と甲賀土木事務所が迅速に確認できるようなマニュアルがあれば良いと思います。

各業務のオペレーションは、国・県の支援チームが主導されますが、市は受入場所を迅速に提供することが重要で、災害時は状況が刻々と変化するので、訓練の際には、各種チームの役割分担や場所の想定をしながら実施する必要があります。

実践で身に付く知識や経験は、本番での冷静な判断につながります。甲賀市を担う職員に被災地支援を経験してほしいと思います。

経験に勝るものなし/ 積極的な被災地現場経験を

避難所内では医療チームは保健師チームなど多くの支援があり、毎日情報共有会議が行われ、医療情報や

福祉と医療との連携が課題 平時からの重層的支援の大切さ



お昼の配食時の様子



段ボールによる仕切り

ボランティアを笑顔と感謝でお出迎え 七尾市 災害ボランティアセンター

甲賀市社会福祉協議会 地域福祉課 大谷喜久 課長

石川県七尾市では、1月10日に七尾市文化ホールに災害ボランティアセンターを設置し、七尾市内の方や県のボランティアバスを通じた災害ボランティア募集をしています(令和6年3月現在)。一日の災害ボランティア受け入れ人数は40人〜80人程度。約20件のニーズをマッチングしボ

【七尾市の状況】
人口48,264人 世帯数21,766世帯
【災害による被害】
火災被害2件 住宅被害(半壊、全壊、一部損壊) 10,900件
*世帯の約半数指定避難所38箇所
避難者数1,166名
(令和6年3月現在)



3/8~3/14 派遣活動

ボランティアを派遣しています。交通手段が必要なため、送迎ボランティアが現地までボランティアを送迎しています。主なニーズは地震で被害を受けた住宅の災害廃棄物(ゴミ)とは言わない)運搬の手伝いや、荷物の片づけ、引っ越しの手伝い(現時点では、七尾市内の引っ越しに限る)などです。

七尾市災害ボランティアセンターの統計データでは、一人暮らし高齢者、高齢者世帯のニーズが多く、家族や地域に頼る人がないまたは地域全体が被災して頼る先がない方が多いのが特徴です。今後、地域コミュニティの復興に向けて、災害ボランティアの活躍と共に地域のつながりや互助の力がますます重要になると考えます。被災地の一日も早い復興を願うとともに、今私たちができることを実行に移していくことが重要だと感じました。



災害ボランティアセンターオリエンテーション



活動中の様子
災害廃棄物の分別



コーディネーターによる調整



被災地の様子

しがDWAT活動/石川県志賀町



社会福祉法人 絆敬会
田中俊之 理事長

しがDWATとは、災害時における、長期避難者の生活機能の低下や要介護度の重篤化など二次被害防止のため、一般避難所で災害時要配慮者(高齢者や障がい者、子ども等)に対する福祉支援を行う専門チームです。

福祉情報のニーズや課題について話し合われます。しかし現場では情報共有されずトラブルとなつたケースもありました。日々ニーズが変化するため、現場において、医療・介護・福祉の情報共有について非常に大切であると改めて感じ、平時からの重層的支援体制の構築は急務です。

志賀町の富来(とき)地区にある活性化センターを拠点に活動3階建の建物内、各部屋には仕切り高さ約1メートルの段ボールベッドで160名の被災者が避難。水道は徐々に復旧している状態で、断水が解消された次自宅へ戻る方がおられる状態。食事は、朝食パン、昼食おにぎり、夜は冷たい弁当でした。